

対応・工夫【学級経営・教師の姿勢】

対応・工夫の内容	事例番号
・教師が伝えた活動の指示に応じている児童に対し、「あっているよ。」と声をかけ、安心して学習に取り組むことができるようにした。	事例1
・クラス内の座席について、両サイドグループの児童たちが黒板の中心に体が向くよう、馬蹄形に近い配置を採用した。	事例1
・教室の前面は必要な物のみ掲示したり、普段使用しないロッカーにはカーテンなどで目隠したりして教室環境を整備した。	事例2
・クラスを4チームに色分け(ピンク・青・黄・緑)し、1年通して整列や掃除場所などをチームごとに行うことにした。また、ロッカーや靴箱もチームの色で示すことで、自分の場所を分かりやすくした。	事例2
・児童の学習机に筆記用具を置く場所を示すテープを貼り、物の置き場を明確に示した。また、机上に出しておく物(鉛筆・赤青鉛筆・消しゴム・定規)を指定し、刺激量の調整を行った。	事例2
・周囲の影響を受けやすい児童は前方の座席にするなど、座席配置の工夫を行った。	事例2
・うまくいくこと、いかないことがあるが、「うまくいくことを続けよう」という意識で取り組んだ。	事例3
・「ありがとう」という言葉を随所で使うことで、相手を認め感謝の気持ちを育むよう努めた。	事例4
・教師が考えていること(願っていること)を対象児が理解し、行動できるように、対象児にも尋ねるようにした。【例:「先生は、これをしたいのだけど、どうしたらいいだろう」】	事例6
・児童らの言動を肯定的に受け止め、ポジティブな言葉やリアクションを返すことで一人一人の自己肯定感を高め、自信をもってありのままに表現できる学級の土台を大切にした。	事例8
・明るく、朗らかな学級の雰囲気の中で、友達と関わり合う場面や、言葉でやりとりする場面を作るようにした。	事例8
・児童に対して否定的なことを言わず、肯定的なかかわりをした。	事例9
・特性を「強み」に変える役割と居場所づくり:「注目されたい」「話すのが好き」という特性を肯定的に捉え、「お笑い係」などの係活動を設定し、クラス内での「価値ある役割」を経験できるようにした。	事例10
・「違い」を認め合い、「互いに待つ」風土の醸成:学級全体に対し、「落ち着く方法は人それぞれ違う」ことを伝え、対象児の離席を特別視しない雰囲気をつくった。	事例10
・トラブル時は無理に指導せず、対象児が落ち着くのを周囲も「待つ」姿勢を共有し、失敗してもやり直せる安心感をつくった。	事例10
・学級のきまりとその理由を、学級全体で再確認した。	事例11

・清掃活動や行事に向けた踊りの練習などに継続して取り組み、学級が一つの目標に向かって力を合わせる活動に取り組んだ。	事例11
・保護者には児童たちのがんばりを、電話や家庭訪問、学級通信などで積極的に伝えた。	事例11
・クラス全体が学習に向かえるよう10分程度、簡単な問題が含まれる小テストを導入した。	事例12
・「できる」「分かる」ことで「褒められる」経験を増やし、お互いを認め合う雰囲気づくりを行った。	事例12
・挙手をして発表することや、一人学びの時は静かに取組むこと等、学級全体の学習規律を整えた。	事例13
・体育や遊ぶ時のルールの特明確化を心がけた。不明な点はないかを最初に質問し合ひ、みんなで確認して実施した。	事例13
・対象児童がイライラして気持ちが高ぶっている時にどうすればいいかを周りの児童たちと一緒に考えた。何で怒っているのか、怒っている時にどうしてほしいかを話し合った。	事例13
・学級力を高め、集団づくりを意識した。学級目標を具体的な行動や、分かりやすい言葉で示し、学期末に学級全体で振り返りを行った。達成度を数値化し、グラフで視覚化する工夫をした。	事例13
・自立活動の時間に取り組むべき内容と在籍する学級で取り組める内容とに分け、誰がどの時間に何をするかを明確にした。	事例14
・ホームルームの時間を中心に1回20分程度、全15回ソーシャルスキルトレーニングを実施する計画を立てた。内容は、生徒の実態を考慮し、高2までに身につけてほしいと考える内容をピックアップした。	事例16
・周りの児童に対し、視覚補助具の使用についての説明をした。	事例19